

創りかた

「美味しい空気」の

自然素材住宅で**本物**の

自然素材アドバイザー
一樹 靖人



創業350年 元材木商の老舗建設会社 社長が明かす

水や食べ物は1日2kg
空気は1日20kg
体に取り込んでます。

自然素材住宅を、予算に納めるコツは、明確な理由の優先順位を知る事です。

美味しき空氣
で家を建てれば全て
になると
思つていませんか？

目次

はじめに	4
第1章　本当に安心できる素材がわからない 作り手の都合に合わせた住宅	10
住宅業界の変化	11
今の普通と昔の普通	11
自然素材とはそもそもナニ?	11
第2章　私がこの小冊子を書いた理由	25
国が考えるシックハウス対策の甘さ	28
一生涯で最も摂取するのは空気です	30

本物の自然素材をつかった住宅を提供しようとthoughtたわけ
大切なのは正しく知つて、自らが選ぶこと
化学物質を排除した「宿泊体感型モーテルーム」

第3章 プロも知らない「自然素材の正しい選び方」	62	62	51	49	47	44	41	41	38	36	34
素材選びに重要なのは「優先順位」	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
どんな素材を選ぶのが良いのか	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
人工乾燥と天然乾燥の違い	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
「新月伐採」について	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
葉がらし乾燥・天然乾燥材について	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•

第4章 気になる予算とお手入れの話
自然素材を使った場合のコストアップは

予算内に納めるコツ・・・・・・・・
住宅のコストバランスを理解し、コストダウンする方法
自然素材のお手入れ方法は意外と簡単
大切なことは・・・・・・・・・・

第5章 信頼できる施工会社の選び方
信頼できる素材を提供しているか
契約前に現場で実際に住まいづくりに携わる人に会ってみましょう
長くお付き合いしてくれる会社さんですか
現場見学会に行こう

あとがき・・・・・・・・

78 76 75 73 73 72 71 66 65 65

はじめに

私は東京の墨田区向島で「下田の小さな建設会社」を運んでいた一樹靖人（いたまき けいと）と申します。

社員10名に満たない小さな会社ですが創業はかなり古く、材木屋として345年もの長年にわたって商売を続けてきました。しかし、の代田となる私が11年前に決断し建設会社へと事業転換したのです。

先祖代々材木業ということもあり、今もよく木の産地へ足を運び、やまやまな木に触れ、自然素材、天然素材の家づくりの研究を続けています。

そんな私に、ある同級生から突然電話が入つてゐたのです。

「1週間前に、新しいマンションに引っ越しをしたり、妻と息子の喜びがどうかへんなんだ」

「大家さんにいの話をあらわし、『シックハーフス対策の建材を使つてつオーマした部屋だから大丈夫ですよ。問題ありませんよ』の一点張り。お前は専門家だろ。

一概はどう思ひ?」

といつ相談だったのです。

高度経済成長を遂げるために、日本の住宅産業はもの凄いスピードで家を供給しなければなりませんでした。

住宅メーカーや建材メーカーは、「いかに効率よく家をつくるか。建材を安く早く供給するか」といつどが一番の使命だったのです。正直、健康への配慮はあまり考

えていたなにかと思います。

その結果1990年代に、住宅の健康被害が急速に広がっていったのです。

それがシックハウス問題です。社会問題となつたシックハウスを解決するためには後建築基準法が改正されました。

ところが、この法律は決して完ぺきなものではなかつたのです。

法改正の後、一般的の建材メーカーはもちろんのこと、自然素材、天然素材をうたつた建材メーカーも、シックハウス対策をした建材であることをアピールしています。しかし、それは基準値の1/10一部を満たすだけで、法律をクリアすることができたのです。

ウォーキングやサブリメントなど、世間はこれだけ健康ブームになつてゐても関わらぬ、「住宅環境に関する法律がどういつものなのかな? 健康にどのよつた影響が

あるのか?」ところにはあまり関心がないようだ。

それをいふことに、住宅産業に携わる大部分の方は、その問題の本質には触れようとしません。なぜなら自分の仕事がやりついでないからです。

私たちは身体に優しい『自然素材』も扱いますし、『一般建材』も扱っています。しかし、私は本当のこと伝えたい上で、皆が選択していくだけのより良いことをが、我々建築のプロの役割だと思っています。

スタイルックに「全てが自然素材の住宅でなければダメ!」といつ厳しいスタンスではなく、自然素材と現代の新建材の利点と欠点を正しく理解して、上手に組み合わせた『バランスの良い家づくり』が大切だと思います。

そのためには、どうしても正しい目を持つたプロのアドバイスが必要です。

「この小冊子は、

「現代の住むは何かおかしこかも?」これは勉強しなければ……」とお断りせられたり方。

あるいは、「本当の自然素材だけを使った家に住みたい。でも嵩あがて手が出ないなあ~」とお困りの方。

やうじは、「自然素材を使った住宅はいと思つけれど、手入れが大変なのでは?」
と、誤解してらぬ方。

「このような方の「お役に立つことができる……」とこう想いで書いてみました。

実際の『温もり感のある自然素材』に触れていたときながらお伝えできないのは残念ですが、なるべくわかりやすくなるべく自分なりに何度も書き直してみました。

しかし、私は文章のバツのプロではありますから。

わからなくていい表現も出していいんだよとかが、最後までおしゃれにいただかねえよ
よろしくお願いします。

一 杣 靖 人

第1章 本当に安心できる素材がわからない

インターネットの普及で、現代社会にはあらまな情報が溢れています。

その中には『正しい情報』と『間違った情報』が混在しています。

発信者も悪意はないのですが、知らず知らずのうちに誤った情報を流してしまっているのです。

そのひとつ、「建築基準法で定められた基準に適合していれば、体に害はない」という情報があるのです。

■ 作り手の都合に合わせた住宅

高度経済成長時代に住宅の大量生産システムが、大手の住宅メーカーを中心に開発されました。作り手側の都合を優先した生産効率の良い建材がどんどん開発・生産されたのです。

しかし、生産効率を優先した為に、様々な化学物質を多用し、健康を害する問題、たとえば、化学物質過敏症やシックハウス症候群といった問題が90年代に「マスク病」というあざられ、とても大きな社会問題となつたのです。

その結果、2003年7月1日に建築基準法が改正され、シックハウス対策が義務づけられたのですが、「この対策基準を守っていれば安全です」「いや、これでは危険だ」と、専門家の間でも意見がわかれただのです。

■ 住宅業界の変化

住宅業界も大きな転換期を迎えていきます。

96年には新築着工棟数が163万戸あったのですが、現在は80万戸以下にまで減っています。そして政府も『優良ストック住宅市場の創生』を柱とする住宅施策へと大きく舵を切っています。

当然、今まで新築に依存していた住宅メーカーも、これまで見向きもしなかったリフオーム産業に進出してきました。また住宅メーカーから仕事をもらっていた下請け工務店さんだけでなく、一部の専門職、たとえば塗装（ペンキ屋さん）やクロス（壁紙屋さん）といった人たちも、生き残りのためにリフオーム産業へと進出してきましたのです。

その結果何が起こったかというと、『建築』という住まいの根本的な知識をしつかりと学んでこなかつた人たちが増えてしまったのです。

また、最近の『ナチュラル指向』や『自然素材住宅フレーム』などによつて、無垢のフローリングと左官壁（塗り壁）でつべれば俗に云つ『健康新宅』が出来上がるようないイメージでお客様への提案をしてこねる社も珍しくあります。

「何が本当に住環境なのだろう。」とインターネットで調べてみると、どのサイトもむつともらしこじとが書いてあるのですが、一般の方々には非常にわからづいて「一体、何が正しいのだろ。」何を選択したよこのだろ。」と逆に頭を抱えてしまう方が多いのではないかでしょうか。

本来、建築の専門家、住環境の専門家は、一般的の住宅に使われる建材や、俗に云つ自然素材と言われる素材の産地に赴き、生産現場や工場を自分の目で確認し、「本当に良い物はどれ」なのか、また「なぜ良いのか」など、正しい情報をお客様に伝えるなければなりません。

そして、気になる『ベスト』についても十分に説明し、予算とのバランス調整をし

ながら、納得のいく素材選びのお手伝いをされることが大切ではないでしょうか。
やうには、自然素材とは縁の切れない『お手入れ方法』も、とても気になるところ
だと思います。

いつした面も知ぬ、しっかりとサポートしてくれるプロを見つけるければなつま
せん。

■ 今の普通と昔の普通

『今の普通の住宅』と『昔の普通の住宅』の違いがわかりますか。

昔の普通とはどういった住宅でしょうか。

昔の住宅は木や畳、和紙や障子紙、土や漆喰、石などで作られていました。
床、壁、天井が湿度を適切に調整し、呼吸していました。
そこには、シックハウスなどは存在しなかったのです。

昔の日本の家は夏型住宅でした。

その証拠に、徒然草で吉田兼好は「家は夏を厭ひあぐし」と書こうとおもいます。つまり、高温多湿の夏に過(こ)しかよがつてかべりていたのです。軒が深く、風通しの良い襖や障子の家でした。

一方、1970年代のオイルショック以降の現代住宅は、冬型住宅へと変化してしまいました。

『省エネ住宅』＝暖房効率の良い家』と書かれ、外に響かないように隙間のない密閉型住宅になったのです。家自体が密閉型で、床は合板、壁や天井はコンピールクロスで覆われる。これが『今の普通の住宅』となったのです。

※本書では、紙面の都合で床や壁・天井などの内装材に限ってお話を進む。

床に使うフローリングと書かれていたのは、実は表面は〇・三ミリ程度にしまで薄べスライスした木を化学性の接着剤で固めた合板に貼り付けてあります。

その合板自体も薄べスライスした木を接着剤で固めていたので当然化学性の臭いがしますし、湿気を吸収、もしくは放出したりはできません。

触れると冷たく、劣化すると表面が剥がれてしまいます。

当然、純粹な木材ではないので、次回のリフォームなどで解体すると産業廃棄物になってしまいます。

次に、日本人の文化とも言ふべきですが、驚いたことに現在の市場を占める量の80%～90%は中国産です。中国産のイグサがどういった農薬を使って育てられたのかは消費者の知るよしもありません。

また昔は泥で染めるのが当たり前だったイグサも、現在では薬品で染めるのが一般的です。藁床もマンションの普及から、スタイルフロームといつ断熱材を芯材に使つ

たスタイル畳が一般的になつました。

宮城県産の藁を天然乾燥させ藁床をつくり、熊本の契約農家で有機栽培に近い状態で真面目につくっている生産農家さんは絶滅寸前という状態です。

現代の畳業界はこのような実情ですが、「やつぱり日本人は畳だよね」などと叫つて、可愛いお孫さんが、本来の姿ではない畳の上でハイハイしているのです。

壁や天井で使われるビニールクロスはどうでしょうか。

クロスはクロース（布）からきた名称で、本来は布を表す単語です。昔は壁に布を貼つていましたが、今の住宅では、ビニールクロスを貼るのが一般的です。

ビニール素材なので、湿度の吸収や放出機能はありません。イメージでお伝えすると、「ラップで包まれたよつな住環境」。つまりビニールハウスなのです。ビニールハウスが『普通の家』で取扱われがありません。

やうじ、現代の住邸は、火災がもれぬと焼死するのではなく、いつこつた化粧性の建材から出る煙で中毒死となり、結果焼け死ぬのだそうです。

『今の普通の住邸』と『昔の普通の住邸』との違いを「」理解いただけたかと思います。ほとんどの方が、「やつぱり自然素材住邸がいいなあ」と思ったのではないでしょうか。

では、ここで質問です。

そもそも『自然素材』とは、どんなものなのでしょうか。

■ 自然素材とはそもそもナニ?

一般的には、自然界に存在する素材、化学性の物質の入っていない素材を言います。が、現代において本当にそんな建材があるのでしょうか。

一つの例です。あるメーカーの珪藻土（カシラード）は珪藻土100%なので、自然素材100%といったつています。しかし100%故に、カビが生えてしまつといつ欠点があります。逆に、珪藻土100%なのに、補修時には水を少し加ませて、いったん半練り状にして補修が出来るところ所もあるのです。

あるメーカーの珪藻土は、施工性を良くする、カビを生えさせないなどの理由で樹脂などを混入せています。樹脂は当然化学物質を含んでおりますので、厳密にいふと『自然素材』『天然素材』とは言えません。

またあるメーカーの珪藻土は、マグネシウムや一ガリで固め、ゼオライトで消臭効果を高めているものもあります。これらは自然界に存在するものです『自然素材』と言つていいかもしません。

自然素材の代表である無垢のフローリングはどうでしょうか。

「えっ、無垢の木は自然の無垢の木でしょう?」

ハイ、たしかに無垢の木は自然の木です。しかし、木を切った後の工程で大きな差が出るのです。ここはとても大切なことなので、しっかり読んでくださいね。

伐採したばかりの木材は、水分を多く含んでいます。この水分を少なくしないと乾燥過程で反ったり割れたりします。しかし自然に乾燥するのを待っていると、時間もかかりますし、場所も取られコストもかかります。

そこで考えられたのが人工乾燥です。

機械を使って強制的に短期間で水分を抜くことで、建材として使用しても、狂つたり割れたりが少なくなるのです。

しかし、強制的に短期間で行うことでの、木の本来持っている油まで抜けてしまい、手触りや香りが全く変わってしまいます。

つまり『木のハイツ』を作つてこらやうなものだといふ入もこねいりこども。はたしてこれは自然素材と言ふのでしそうか。

それとは対照的に、天然で乾燥させた木材もあります。

これは昔ながらの方法で、木材の水分が一番少ない時期、つまづく間に樹節に伐採し、枝葉がついた状態で数日乾燥させます。これを『葉枯りし』と言います。

葉枯りしを行うことで、水分や澱粉質を少なくして、虫やカビが発生するのを抑える効果があります。

葉枯りしの後、山から降りて、製材して数年かけてじっくりと自然に乾燥せめるのです。この場合は木の本来もつてゐる香りや艶が残ります。しかし手間暇や保管場所など、コストがかかるだけに、実践している製材所はとても少ないのです。

特に気をつけなければならないのは、『葉枯りし』『天然乾燥』をやつてこなすと

つたつても、実際には期間を短くしてこねいのが多いのです。

無垢の木とこつても、産地の国籍しか明らかにせず、どうこの環境で育った木か、どういう製材過程でどういった環境の倉庫に保管され、何様の油やまで潤くのかも不明な材料が多いというのが実態です。

中には防虫剤や漂白剤を使ったもの、またはやうこつ材料とともに同じ倉庫で保管されたものもあります。

残念なことです、木材には産地を偽ったものもあります。私が本当に良い木材を求めて探し回っていたころ、一つ一つの木材を、完全に産地や生産者を特定できないという問題に突き当たりました。流通市場では、たどつていけば必ず生産者に会えるはずだと信じていた私にとって、これはかなりショックな出来事でした。

ある銘木を生み出す有名な産地を訪れたとき、私は悲しい現実を知ったのです。

そこには小さな小屋が建っていました。その小屋はある住宅会社が製材所として使っているのですが、その製材所で加工している木は地元の木ではありませんでした。他の産地の木を運び込み、この地で加工するのです。

その加工が終わると、本来の産地名は消えて、この製材所の住所である『××産ブランド』となるのです。

「これには地元の人たちも怒りを通り越して呆れています。

私は、このあたりを目の当たりにして、

「これはもう自分の田で確認したものしか信じられない」

「今後は、必ず現地に赴き、生産者と会い、この田で確かめた木だけをお客様に提供しようと決意したのです。

自然素材住宅と言つても、会社によつて様々なるものが提供されています。

信頼出来る専門家のアドバイスをもとに、『新建材』と『自然素材』自然素材のメ

コット、ナメコット。その使い分けについての知識を深めてこきましよう。

第2章 私がこの小冊子を書いた理由

突然ですが、人間は1日に何kgの空気を吸っているのかご存じですか。

空気で「何kg?」と聞かれてもピンと来ないかもしだれませんが、水の中で水の重さを感じないと同じように、重さを感じない空氣にもちゃんと重さがあるのです。

人間は1日に食べ物や飲み物を約2kg摂り、空気を15~20kgも吸うと言われています。食べ物や飲み物の場合には、肝臓がある程度有害な物を濾過してくれますが、空氣に含まれる有害物質は、肺胞から直に血液へと運び込まれてします。

それからくるPM2.5環境がいかに大切であるのかおわかりになれるかと思います。

では、家の中の空気は何の影響を受けるのでしょうか。

住宅建材はもちろんですが、カーテンや防虫剤、塗料や芳香剤などから発散される成分が家の中の空気に強い影響を及ぼすのです。

学校などの工事では、厳密に環境測定を行います。工事の前と後で、ホルムアルデヒドなどの化学物質の残留数値を測定し、人体に有害な物質が残っていないか検査するのです。

以前聞いた話では、教室の環境測定をしたといい、化学物質の数値が著しく高く出てしまい、施工した際の建材を詳しく調べたのですが、全く原因がわかりませんでした。ナノサイズに調査を進めていくと、その原因是生徒の中国産の上履きだったというのです。室内に置かれてあるものが、室内空気にこれほど大きな影響を及ぼすのです。

当社の事務所を新築した際にも学校の事例とよく似た出来事がありました。

私の会社の宿泊体感型モデルルーム『空まぬの木』は、接着剤やボンド、合板など、化学性のものは一切排除して、天然の糊と純粹な自然素材だけでつくりた住環境ですが、事務所もほぼそれに近い方法で、合板や化学性の接着剤やボンドを一切使わずに事務所をつくりました。

工事中でも木の香りが際立ち、とても癒やされる現場でした。

この工事現場を担当する弊社の乙君は慢性の皮膚炎を持っていました。といふが、この事務所の工事中は皮膚炎が治ったのです。あたりの社員たちもこれには本当に驚かされました。

そんな素晴らしい環境の新事務所が完成し、引っ越し作業を進めて行くと、清々しい空気感が徐々に薄れていきました。

「何が原因だろう?」と調べてみると、建築資材のカタログやサンプルが犯人だったのです。

■ 国が考えるシックハウス対策の甘さ

シックハウス対策に関する法令は、平成15年（2003年）7月1日に施行されました。この法律、すなわち『国が勧める住環境』について簡単に説明したいと思います。

この法律によつて、2つの化学物質が規制を受けたのです。

【クロルピリフォス】

これは主にシロアリから建物の土台を守るために使用されていた薬剤に含まれていました。居室を有する建築物には、このクロルピリフォスを添加した建材の使用が全面的に禁止されました。

【ホルムアルデヒド】

これは内装の仕上げにおいてホルムアルデヒドが制限されました。

ホルムアルデヒド発散建築材料の面積制限が設定されたのです。（令第20条のア）
さりとて、人体に影響を及ぼす化学物質と認識されているので、『換気設備』を義務づけたのです。（令第20条の乙）

つまり、「化學物質含有建材は全面的に禁止する」とはできないので、使用する量を制限し、わざわざ発散されることは防げないので、24時間換気してこなさい」というおかしな法律です。

さりとて、首をかしげてしまつるのは、コフォーム工事では24時間換気が義務づけられていないので。

国民生活の保障と向上を図る厚生労働省はなんと言つてこなでしようつか。

驚くべきことに、国土交通省の2物質を遙かに上回る13物質を化学物質の規制対象にあげ

しているのです。

基準数値の方では、やつとミエの基準値〇.〇〇 ppmに追いつきました。余談ですが、カナダではやつていて厳しき〇.〇〇 ppmを基準値としておる。

■ 一生涯で最も摂取するのは空気です

先ほど、「一日で何kgの空気を吸っているのでしょうか?」と質問いたしました。同じじで、むづむづとい質問します。

「私たちが吸っている空気ですが、室内空気と屋外空気の比率はむずびりだと思いますか?」

日本建築学会の「シックハウスを防ぐ最新知識」のデータから主なものをあげますと、

- ・公共施設の空気 12%
- ・産業排気 の%

・外気 5%

・室内空気 57%

私たちが一生で吸つ呼吸の半分以上は『室内の呼吸』なのです。
ちなみに飲み物8%、食べ物7%でしかありません。

では、次に子供と大人の空氣摂取量の違いについて説明します。

東京都福祉保健局の『化学物質の子供ガイドライン（室内空氣編）』によると、
1日あたりの呼吸量は体重一キロあたり子供で0・10m³、大人で0・3m³、なんと子
供は大人の2倍。という数値になっています。室内空氣の汚染が小さな子供たちに大
きな影響を及ぼすのです。

水や食べ物は1日2kg

空気は1日に20kg

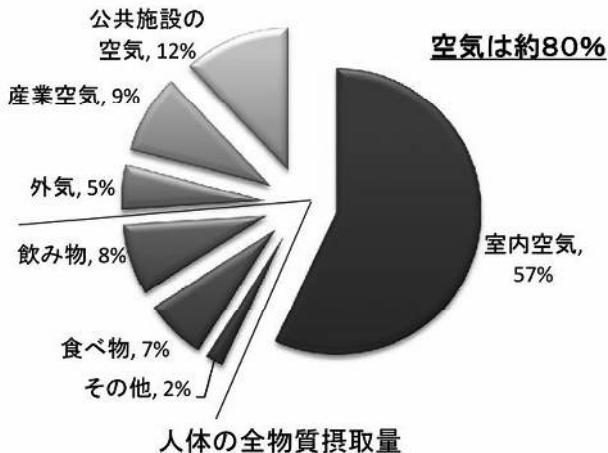


食べ物は肝臓で濾過されるが、
空気は肺胞から直に血液です。

家の中の空気は家がつくっています



一生涯で最も摂取するのは空気です



日本建築学会
「シックハウスを防ぐ最新知識」より

「シックハウス症候群」になると



■ 本物の自然素材をつかつた住宅を提供しようと思ったわけ

一部の農家さんは、「農協などに納める野菜には農薬を使い、見た田のよい綺麗な野菜を作りますが、自分達の家族が食べる野菜には農薬は使わない」という話を聞いたことがあります。

私はこの話を聞いて驚くと共に、「でも、そのようにしないだらうなあ～」とやるせない気持ちにもなったのです。

『食品の裏側』という本を手存じでしようか。

食品添加物の神様と言わされた方が執筆した本で、ベストセラーになりました。廃棄寸前のクズ肉に30種類の食品添加物を加えると、格段の美味しいミートボールになったそうです。ある日の夕方、自宅に帰ったとして、それを食べている娘を見て、「恐ろしくなったー」と本の中で語っています。

残念ながら一部の食品メーカーは、自分達が食べたくないものを生産し、『食品』

ではなく『商品』として販売しているのです。先ほど紹介した野菜をつくる農家も同じです。

「このよつたな食品の安全性について考えてこねりたい」、

「では、私たち建設業界はどうなの?」と自分の業界についても尋ねてみたのです。お客様に提供する住まいは『商品』であり、安く、クレームになりないというのが根底にあるのです。しかし建設業界の人たちで、自然素材の心地よさ、新建材の危険性を知っている人は、自分達の家づくりでは無垢の床を使っているのです。自分の家づくりなら自然素材を使うのに、お客様には提案しない。

その理由は、「お客様は新建材の危険性を理解できないから……」「自然素材は反りなどのクレームが出やすいから、トラブルが怖いから……」

このような風潮が今もしつかり根付いているのです。

「わが、自分の気持たを騙すことはできないな。」

という想にから、「よしー、本当の自然素材を使った家づくりを啓蒙してこいつ。積極的にお客様に伝えっこいつ」と心に決意したのです。

■大切なのは正しく知りて、自らが選ぶこと

今や、食品添加物無し、新建材無しでは、社会生活が成り立たない時代になってしまった。「これがいい眼がないので使つてはいけない」と全面否定するのではなく、害の可能性などをちゃんと勉強して、理解してから自らの意思で選ぶといふことが大切だと思います。夏場の忙しさお風呂にコロッキーのおにぎりを食べられるのは食品添加物があるからです。

そうしたメリットとデメリットをしっかりと知り、自分には何が大切なか、何を優先するべきなのかをしつかり考える。そして選ぶことが重要なのです。

それと同じように、住環境に使われている新建材の書の可能性を学びと共に、新建材の便利さや意外と簡単な自然素材のお手入れの方法なども勉強したうえで、あなたのライフスタイルに合った『家づくり』に着手してもらいたいと強く願っています。しかし、私たち建築業界側もその体制づくりがまだまだ間に合っていないのです。

作り手側は（施工会社）自分たち優先の建材選びになっています。危険性には目をつぶっています。木材の産地偽装も行われています。

「これらを改善していくには、私ひとりの力ではどうにもなりない……：」

「でも、その問題を多くの人に伝える。その書を少しでも回避する方法をお教えしたい。これぐらいなら、私ひとりでもできる」

「できるだけ多くの方に、本当に良い素材選びを学んでもらいたく、『お家の美味しい家』に住んでもらいたい」

私は、こんな想いでこの小冊子を書いて決意したのです。

■ 化学物質を排除した「宿泊体感型モーテルーム」

私がいくら声高に自然素材の家の素晴らしさを伝へても、なかなか理解して貰えないという現実がありました。

そこで、私は完全に化学物質を排除した空間『宿泊体感型モーテルーム』を創りました。

このモーテルーム施工担当 乙船の皮膚炎が、モーテルームの工事中に治まったという『室内の空気の美味しい』を多くの方に体験してもらいたいという願いを込めています。

内部の仕上げには徹底的にいたわづめました。

カーボンマイレージ※を底へ抑えたりぬいて、産地はなるべく近県の物を選びました。下地などにも化学性の糊で貼り合はせた合板やベニヤを一切使用せず、杉の無垢板で下地からつくりました。

※カーボンマイレージとは、産地と消費地が離れていれば離れてるほど、輸送機関を多く使うので、より多くの二酸化炭素を排出してしまうところ考え方を参考に開発され指標。使用する接着剤は「カツミ」を主原料とし、布クロスは澱粉とタピオカ、コーンスタークを原料とする糊を使用、土壁は海草糊を使いました。

そして、キッチンは職人の田、大田区の友人の会社に特注で作ってもらい、キッチンの床はマイナスイオンを出すと言われる十和田石に床暖房を入れ、ペレットストーブで冬でも快適な環境としました。

さらに、天竜の桧のフローリングや櫻のカウンター。畳は国産有機のイイグサと藁床を使っています。扉関係も全て自然系接着剤を使用してつくりました。

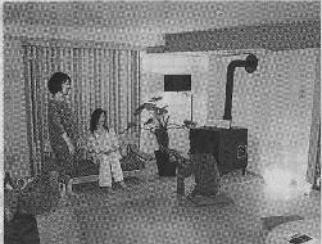
家具においても、様々な家具職人さんの中から「この方なら」という方に愛知県まで実際に会いに行きました。そしてその方の想いを聞き、共感した素敵な家具職人の「夫婦に、八幡平の栗の木を使って製作して頂きました。

「全ての材料が、産地・生産者がハッキリしているものか? 間違いないものか?」

自分で確認したのです。

ここまで拘った素材選びが話題となり、平成24年6月26日の日経新聞に取り上げられ、

今も宿泊体感や見学の方々が大勢来てくださいます。また、「この室内は本当に空気が美味しい」と地域の人たちがセミナーやワークショップ、料理教室などに使っています。



木の香りに包まれる。都心のにある山小屋に来たみたい」——。関東を中心に住宅リフォームを手掛ける駿河屋(東京・墨田)の宿泊体感型モデルルームを訪れた会社員の海上尚子さん(36)は思わず声を上げた。売り物は徹底的に天然素材にこだわった内装だ。

5月下旬に開いたモデルルームは観光客でにぎわう東京スカ

旬 すばつと

リフォーム、泊まって体感

イツリー(東京・墨田)に近いマンションにある無垢(むく)のヒノキ材の床や珪藻(けいそ)土の壁だけでなく壁紙も食品によるタビオカを使つたりで仕上げた。

国産杉のフラインドも表面に蜜蠟(みつろう)を塗つている。ただ見るだけではなく「一晩過ごして五感で体感して家造りのイメージを膨らませてほしい」(一柳靖人社長)といふ。

東日本不動産流通機構(東京・千代田)による首都圏の中古マンションの成約件数は4月が前年比2ヶ増。5月も約4・5%伸びている。都心の中古物件は堅強い需要がある一方、老朽化でリフォームが必要なケースも増えている。

宿泊体験は無料。これまで週末は予約で埋まっていた。同社は夏休みになると平日のお利用も増えるとみている。

＜平成24年6月26日の朝刊に掲載＞

話題となった宿泊体感型モデルルーム「空まねの木」

宿泊体験以外にも、見学、セミナー、ワークショップやお料理教室などにもご利用頂いている。

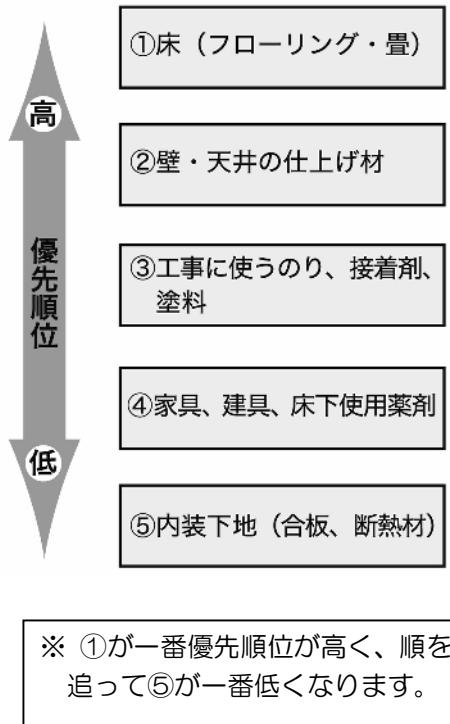
第3章 プロも知らない「自然素材の正しい選び方」

「自然素材は難しい」「何が本当に良いのかわからぬ」「全部自然素材にしなければ意味がないのだろか」という考え方では、予算がいくつあっても足りません。ではどうしたら良いのでしょうか。

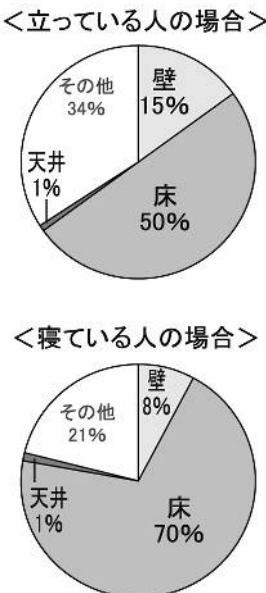
■ 素材選びに重要なのは「優先順位」

家づくりを予算内に納めるには、優先順位を正しく知ることが重要です。そこで、私が考える『住まいに使用する素材の優先順位』についてお話しを頂きます。

室内に露出していく、使用量の多い内装仕上げ材の対策が最も大切です。
予算に合わせて、対策の優先順位を決定することが、合理的な対策方法となります。
ではなぜ、床が大切なのでしょうか。



次の「室内空気の摂取比率」を見ると一目瞭然です。



一般社団法人日本建築学会 「シックハウスを防ぐ最新知識 健康な住まいづくりのために」より

このように、床からの空気の摂取比率が非常に高いことがわかります。また有害な物質は床付近に滞留することも知られています。

このことから、私は優先すべきは床であり、尚且つ『寝室』や『小さなお子様を寝かしつける部屋』の室内環境をあげ第一に優先すべきだと考えております。

なぜなら、自宅の寝室で過ごす時間は人生の1／3とも1／4とも言われており、

ついでに現代人は睡眠のストレスなどにより、睡眠の品質で免疫機能が低下あるいは抑制されています。

「優先すべきは田舎の寝室を最優先しましょ！」と書つても、実際は家族が樂しく集うツーピングを第一に優先されたい方も沢山いらっしゃると思います。優先順位については、一度「家族でしっかりと話し合ひ」とをお勧めします。杓子定規に決めつけるのではなく、生活が一番楽しくなる方法を見つけてください。

■ どんな素材を選ぶのが良いのか

次に、「どのよつた素材を選ぶのが良いつか」についてお語りします。

まずは、大まかに二つ説明します。

- ・安眠（よく眠れる・睡眠の質が良くなれる）
 - ・調湿（カビの抑制・ダニの抑制）
 - ・産地、生産過程、生産者が明らか
 - ・自然素材100%（化学物質の混入ゼロ）
- このような田安で考えるのが良いでしょう。

では具体的な説明に入らなければなりませんが、紙面に限つがありませんので、比較的質問されることが多い『無垢のフローリング』『珪藻土』『塗料』『接着剤』についてお話ししたいと想います。

無垢のフローリング

ズバリ、国産のフローリングがなにより一翻です。産地が特定であり、生産者が明

らかなの。そういう提供する業者が信頼できることが重要なポイントです。

どこの山から、どういった人が関わり、どのような流通経路をたどって私たちの手まで届くのか? この部分が不明なものはお勧めできません。

しかし中には「いや、アーナのウォールナットが使いたい!」と思われる方もいらっしゃると思います。そうした方は、しっかりとプロからのアドバイスを聞き、納得した上でウォールナットを採用するのも良いと思います。

「こ自身が本当に欲しいものを選ぶ」ことは、楽しい住まいづくりにとって大切なことです。なんでもかんでも「ダメ」と決めつけのではなく、「こ自身の優先順位」とメリット、デメリットを調べた上で、「こ自身が一番樂しいもの、心地よいと感じるものを選ぶ事が大切です。

そのためにも、木の原産地まで足を運び、その環境を肌で感じ、生産者と会って人柄を知り、生産過程や保管方法、流通経路を把握し、自信をもつてお客様に提案して

べる工務店や建設会社を選んでください。必ず見つかります。

■ 人工乾燥と天然乾燥の違い

人工乾燥をした木材と天然乾燥をした木材では雲泥の差があります。是非天然乾燥材のフローリングを実際に見て触れてもらいたいと思います。されば、天然乾燥と人工乾燥のふたつを並べて比較してみてください。艶、香りともにその差は歴然としています。

「でも、天然乾燥はかなり高いのでは？」

「自然のことながら、通常ルートで仕入れるとコストは上がりますが産地の林業家さんや製材所との太いパイプをつけておけば、お手頃な値段で仕入れることができるのです。」

「天然乾燥材なんて、反つたり狂つたり大変だよ」という工務店さんもいます。

それは、反つたり、狂つたりするヒドクレームにならじむを恐れています。木材は天然の素材です。当然多少の反りや狂いが出る可能性はあります、それにも代えがたい素晴らしい良さがあるのです。

このような『乾燥方法の違い』以外にも木の選定基準があります。

私がお勧めしたくないフローリング選びの選定基準を次にあげています。参考にしてください。

- ・無垢でも漂白や防虫処理のされたもの
- ・産地偽装品（生産者、産地が特定できない）
- ・ヨーナタイプ（短い材料を継いであるもの）
- ・人工乾燥材（香りが少ない・艶が無い・本来の良さを楽しめない）

新月伐採・葉枯らし天然乾燥の木材

新月伐採材・葉枯らし天然乾燥木材とは聞き慣れない言葉だと思います。これらのことと詳しく述べて勉強している方は建築業界でもほんの僅かしかいないと思います。

■「新月伐採」について

新月伐採は月の満ち欠けによって木材の伐採時期を変える方法です。これは、科学的にも立証されている伐採方法です。

2003年に『木とつきあう知恵』という本が翻訳され出版されました。これはオーストリアのチロル地方の営林職員の方が、1996年に出版し、大ベストセラーとなつた本です。月が示す正しい時期に伐採した木材は極めて良質の木材（水分や澱粉質が少ない）になるといつものであります。

その後チコリッヒ大学で研究され、正しさと実証されてからは、オーストリアの

森林局も方針を180度転換し、「新月の木なのか?」「新月でないのか?」を木材の証明書に明示するようになつたのです。

あのヴァイオリンの名器「ストラディバッビア」も新月の木でつくりれたのです。実は、日本でも、「木は八月の闇に切れ」と云う言葉が500年以上前の書物、墨子見記に残っています。これは旧暦の8月、つまり現在の8月から10月上旬の夜、新月に切ると良い材木になるといふ意味なのです。

世界最古の木造建築として知られている法隆寺も「闇伐りの木」つまり、「新月の木」を使つてゐるといわれています。

では、なぜそつした素晴らしい先人の教えがなくなつてしまつたのか?

それは、効率や生産性、そしてコストを重視した為にいつのまにか忘れ去られてしまつたのです。

■葉がらし乾燥・天然乾燥材について



新月になる直前まで伐採を行うのが、本当の新月
伐採木材



一本一本にバーコードが貼られ、トレーサビリティ
ーがしっかりと管理されている木材は極めて希少

通常の木材は、山から切り出したり、製材して人工的に乾燥させたり狂うが出ないようにして出荷されます。

しかし、本来は木材を人工的に乾燥させたいなどあつたのです。では、昔からある天然乾燥と、その対極にある人工乾燥とはどんな違いがあるのでしょうか。

人工乾燥とは、木材を乾燥庫に入れ、温度を上げて、木材内部の水分が移動しやすい状態を作り、温度等をコントロールして、適切な乾燥を7日から2週間などの短期間で行うものです。

「人工的に木の『マイラをつくる』」といつ言い方もする人がいるほどです。

人工乾燥の木は、香りや色つやが本来の木の姿ではないのです。

また、内部割れや強度の低下も問題視されています。

外部が一気に乾燥し固まり、内部が乾燥していくので割れが生じてしまうのです。表面が固くて中が弱い……。ある意味では、今の建築基準法通り、表面にビスを打つて金物で止めなければならない弱い材料なのです。

もしも、人工乾燥で内部がスカスカに乾燥している木を使って伝統工法で施工したら、かなり危険だと思います。なぜなら、伝統工法は木の芯を繋いで作る工法だからです。

試しに人工乾燥の木を叩いてみると、内部割れした柱はなんとも言えない空っぽの音がします。天然乾燥材は何年もかけて、じっくりと強度が上がっていくに対し、人工乾燥材は一気に劣化させて、あとは強度低下をしていくだけなのです。

人工乾燥の歴史は、明治四十一(1908)年に乾燥装置が初めて輸入され、大正10(1921)年ごろから一般民間企業への普及が始まったのです。

そして、関東大震災後の復興需要。そりには敗戦後の復興需要と、木材需要が一氣

に伸びたとして、供給する側も人工乾燥の木を大量に生産し出荷していったのです。

またもう一つの側面として、30～40年前は木材の価格が1万円／立米(m^3)くらいでした。現在では1／10以下の3千円～4千円／立米(m^3)にまで下落しています。同じ木でも安くなつてしまつた国産材は、国から補助金をもらつて運搬していくのがやつとの状態です。なんべくコストをかけずに製品にしなければなりません。残念ですが、手間のかかる自然乾燥の木が急速に減少していったのです。

しかし天然乾燥の木は、人工乾燥のものとは全く別ものです。ぜひ、天然乾燥の木の艶と香りを実際に見て触れてもらいたいと思います。

次は、葉枯らし乾燥材について説明します。

葉がらし乾燥とは、山で木を切り倒したままにして、数ヶ月の間、放置・乾燥させる方法です。木の養分を飛ばすことで、虫が付き難い木になるのです。

葉枯らし乾燥は、今や全国各地で行っています。しかし、多くの産地は放置・乾燥期間が足りません。私の知るところでは、静岡県天竜のある組合だけが、3ヶ月間の時間をかけてじっくりと乾燥させています。

さて、気になるのが「コストのお話」です。

直接仕入れをしている会社さんでしたり意外に安く仕入れることができます。たとえば床材でしたら、インターネットの『安売り床材』と大差ない価格で提供してもらっているのです。

「本物の自然素材は高い!」とは一概に言えません。

一度、信頼できる工務店、建設会社に相談してみましょう。

珪藻土

現在、珪藻土といつづけて販売されている建材はいくつもあります。正確に数えた

ことはありますか？が、検索して色々多種多様の『珪藻土』が出します。それそれに自社の独自の視点からあげたりをアピールしており、一体どれが一番良いかが本当にわからつい状態です。

工務店がお客様に勧める珪藻土もあります。あまり信頼のおけない工務店の場合は、「クレームにならないやつ」の「仕入れが安いもの」とこの理由で「これがイチ押しの珪藻土ですよ」と、あなたに勧めて貰うとあらゆる注意が必要です。

本当に自然素材100%の珪藻土は、カビが発生するリスクもあります。

それでも、「本物の自然素材を使いたい！」とこの場合、そのリスク、メソッドを正しこそあい方などもきちんと説明してから、じつは本当に判断するしが大切です。

塗料・ワックス

フローリングなどをネット販売で購入しようと調べてみると『自然系塗装』といつ表示が田んじあります。この『自然系塗料』とは 一体何でしようか。

一般的には「これは自然由来のものを主成分として作った浸透系塗料を使って塗装してあります」という意味なのです。しかし、この塗料の素性がわからづらいのです。そもそもメーカーで作っているので工場に出向き、徹底的な調査でもしないかぎり、本当に自然のものかどうか判断はつきません。

「有名な外国製の自然塗料を厳密に調べてみると、様々な化学成分が検出された」と、ある住宅関連団体の方に聞いたことがあります。では、何を基準に塗料やワックスを選べば良いのでしょうか。

一番ここに方法は、「実際じ因こを嗅こてみる」ことです。自分で匂つかないかは自分の嗅覚で判断するのが一番です。

この方法で不安な方にいた、桂胡麻種子を原料とする100%植物油を使つてこの塗料をお勧めしております。その根拠は非科学的ですが、自分の鼻でわざわざ塗料を匂つた結果、「一番疎和感がない」と感じたのです。

好みによって、フローリングに着色する事も可能です。着色には植物性の顔料を使います。松を燃やした松燃（しょくさん）、酸化第一鉄の弁柄（べんがら）、有名な柿渋は、柿渋を粉碎、発酵させています。

『木』本来の肌触りを感じたい場合は、ミジバチの巣を形成する齧蟻（みつぐい）仕上げをお勧めです。あのミジバチの巣や子供が入つてこられる白い蓋の部分が齧蟻です。

当然、塗装やワックスもなしで、木本来の姿のままから地味にしきれぬ雰囲わざりにしあります。あるいは、経年美化で艶色に変化していくので、汚れは気になりません。この方法もこうしてしゃまます。

あなたのお好みでお選びになつたいたい限りと思います。

糊・ボンド・接着剤

いじりもだいじだわかつてこむ工務店は少ないかもしけませんが、『糊・ボンド・接着剤』も重要なポイントのひとつです。

最近の木工用ボンドは、同型剤（フタル酸エスチル、リン酸エスチル）を含まないところが多數なるものもありますが、これも含め建築で使用するボンドの中でも「F☆☆☆☆」（通称「フォースター」）で、「ホルムアルドヒドの放散の少ない」というものの

です。

「フォースターだから健康住宅」などと書いていた会社さんは、さすがに最近は少な
くなりましたが、国が決めた濃度指針値より低いところだけです。こうした接着剤を
使用せずに施工する方法があります。それは昔から接着剤として使われてきた膠（ニ
カワ）を主成分とした接着剤を使用することです。

この膠は主成分がタンパク質で、動物の皮膚や骨などのコラーゲンを抽出したもの
です。接着力は白ボンドよりも強力です。

またクロスに使う糊も、タピオカや澱粉、コーンスタークを使ったものがあります。
これは食品のようなものです。ですから防腐剤を入れないと腐ってしまうのです。これ
こそ安全の証しです。

以上、ざっと一般的な素材についてお話をさせて頂きました。

その他にも、純国産の畳や布、紙クロス、鉱物を主原料とした樹脂入りでも、ドイツの基準をクリアしている調湿効果がものすごく高い塗り壁材、漆喰や天然のシラスを使った塗り壁材など、ここではお伝えできない素材が沢山あります。是非、お近くの専門家に相談してみましょう。

第4章 気になる予算とお手入れの話

■ 自然素材を使った場合のコストアップは

では実際に自然素材を使つたら、今の普通の住宅に比べてどれくらいコストアップにつながるのでしようか。

ここでは構造材や外壁材などは無視して、室内環境に絞つて説明したいと思います。

結論から言ひますと、いくらでもお金がかかります。

自然素材、特に木材は珍りの素材です。

「天竜産の自然乾燥で無節（節のない）の4ミリフローリングが欲しい」「ケヤキの4mの無垢のカウンターが欲しい！」などになると、予算もかなり見込まなければなりません。

しかし、高い物だけが本物の自然素材でしょうか。2ミリのフローリングで節が混じつた一等材（節が沢山ある木材）でも本物は本物です。合板や貼り合わせのものではありません。本物の木の味わいがそこにはあり、香りもしますし湿度も吸収してくれます。

つまり、高級な自然素材が良いのではなく、リーズナブルでも『本物』を使うことによって、素晴らしい住環境は実現可能なのです。

また、左官仕上げはどうしても人件費がかかりますので、やうした中で労務費の比率の低い材料、たとえば布クロスや紙クロスなどを自然糊を使って仕上げるといで、

大きいコストを抑えることが可能となります。

ちなみにマンションなどのフルリフォーム（住宅設備器機を全て交換して、内装を全て張替、その他間仕切り変更などなど）では床あたり大手住宅メーカーで10万円くらい。一般的工務店では8万円くらいかかりますが、内装を自然素材に換えると、簡易なものであれば床あたり10万円、ある程度しっかり行つても12万円程度で空気環境が全くかがったものが出来上がります。その価値から考えてみると、それほど高くはないと思います。

あくまでも田舎ですが、新築住宅で15%から、コーブドマンションのスケルトンリフォームで20%程度からの価格アップで、『仕上げに自然素材を使った住宅』が手に入ります。

「新築の方がなぜコストアップの割合が小さいのか？」

それは、外壁や基礎、屋根などにかかるコスト全体に対する仕上げ材の占める割合が

少なくからず。外壁や基礎などの費用が必要なマンションでは内装材の占める割合が高くなるのです。

それでも、これを35年ローンで毎々の返済に回さなければならず、それほど大きな負担ではないことがわかります。

■ 予算内に納めるコツ

住まいづくりでは『予算』はとても大切です。いじりながらやつて予算に合わせて最適な素材選びをしていくかお話しします。

しかし、紙面の都合で素材を適材適所に使ってコストダウンする方法は次の機会にして、住宅全体のコストバランスからコストを抑える方法をお話しします。

■ 住宅のコストバランスを理解し、コストダウンする方法

新築の場合ですが、全体の建築費の25%は設備工事の費用と言われています。

現代の住や設備業界は、どんどん新商品を出したこと売れない時代。なかには「余計なお世話系」というオプションも沢山用意されています。

でも、働くお母さんが多い現代。食器洗い洗浄機などは、家事の手間暇を少しだも軽くしてくれるのでも助かります。

しかし、そのままの勢いでショールームに行くのはお籠ぬもりません。良い物、便利なものを目にすると、どうしても『豊富なオプション付き新製品』が欲しくなるような心地よいショールームはどうあります。

そんな時、一歩立ち止まって「私たちの生活はいいおうたいのか?」と冷静に考えてみるようになります。

しっかりとした設計士さんや工務店さんによるショールームにも回行してもいいこと、コストバランスの面でもアドバイスをもらつてみたいと思ふことがあります。

■ 自然素材のお手入れ方法は意外と簡単

自然素材と聞けば、「お手入れ方法が解りづらい不安がある」とこの声をよく聞きます。しかし、手入れは意外と簡単です。

日常生活ではホコリを拾つか、掃除機で吸い取つたら固く絞つた雑巾で拭く。ただそれだけです。逆にいろいろな薬品や道具の使用はお勧めできません。

特に中性洗剤以外の洗剤の使用や、スチームクリーナー、化学雑巾や化学モップ。もちろん、ポリッシャーなどは使えません。

お子さんが小さい場合にも、ソースやケチャップなどの食べこぼしもお配です。やつした場合にのみ、中性洗剤を溶かしたぬる湯を使い、よく絞つた雑巾で拭いてください。クレヨンや水性ペンなどは、布にベンジンを付けて卅回ほど拭きなさい。油性ペンなり油性マーカーで落したりするときは、

これは驚かれるのだが、フローリングが凹んでしまった場合には、水をぬませた日本手ぬぐいなどを当ててしばらく置き、その上からアイロンをかけます。5秒から10秒程度度ほど、様子を見ながら押しつけたり離したりする作業を数回繰り返すと凹みが戻る事があります。

また、珪藻土などの中の塗り壁の場合、材料を少し残しておいてから、ペシドボトルをハサミでカットした器をつくり、水で溶いて刷毛で塗っても補修は可能です。素材や塗りパターンによって、補修箇所が目立つことがあります、手先の器用な方であれば、それなりに補修可能です。

割れやキズがどうしても気になつてしまつという方は、割れない素材を選ぶことも可能です。当然、樹脂が入っていますが、ドイツの基準をクリアしているものなど、「比較的」安心できる素材が数種類あります。

しかし、じつじつた素材の家に住む事は、手入れの手間よりも、お手入れをするじぐれられたメントの方が多いと思います。

何より大切なことは、手入れをすることに毎日心に愛着がわいてくることです。家族で行えば、お子様の体験教育にもなります。これは、ものを大切にする心、もつたいない、物にも命があるなど、日本人が本来もつていた大切な「心」を学ぶことができるのです。これはとても貴重な体験です。

次は汚れやすい場所の素材選びについて説明します。

たとえば、玄関の段差部分の壁ですが、このような場所はどうしても壁に手をついてしまいます。じつじつた場所に汚れの落ないように素材で仕上げてしまつと、手垢がバツチリと残つてしまい、汚れが落とせなくなつてしまつます。

そのような事態を避けるために、布クロスは段差や近の壁面には使わないなしの配慮が必要でしょうね。

また、キッチンの床は無垢のフローリングではなくシラgorithなどの汚れが心配という方も多くいらっしゃいます。そのような場合はコルクなどをお勧めします。しっかりとコートイングされてるので染みついともありません。

さて、長時間立っていても疲れづらい、温かいといった利点もあります。ナチュラルテイストを求めて自然素材の仕上げにしたいのであれば、とても良い選択だと思います。

このように、何でもかんでもアンチ化学物質では、逆にお手入れのストレスが増えてしまつて、そもそも心地よくなれない間、居心地の良くなれない間ではなくなつてしまつ可能性もあります。

じこいつ」といふことを熟慮したうえで、自然素材と新建材のバランスを考えてみましょ。

■大切なことは

大切なポイントをまとめると、

1. 自然素材、新建材のメリット、デメリットを正しく理解すべし。
2. 「自分などどの程度、化学物質を排除したいのか」「どんなライフスタイルを望んでいいのか?」じっくり考える。
3. 自然素材と新建材のコストバランスを考えながら、優先順位をつける。お互いの良い点を融合せしむ。

たとえば下地材は新建材を使用して、仕上げ材（表面の素材）には本物を使う。

しかし、予算のこともがあるので、無垢のフローリングでも節の大きくなつた物を選んでコストを落とす。

空いている洋間はこの際、納戸として活用し、子供が大きくなつて、自分の部屋を持つようになつてからリフォームするなど、『ステップアップリフォーム』を選択肢の一つとして加える。

このように、現在のライフスタイルとコストバランスをしつかりと見極め、優先順位を考えて最適なプランを一緒に考えててくれる工務店さんを探しましょう。

第5章 信頼できる施工会社の選び方

私独自の視点になりますが、この最後の章で『信頼できる施工会社の選び方』につ

いてお話ししたいと思います。

■ 信頼できる素材を提供しているか？

産地偽装などもある木材業界では、一体なにを信頼したらいいのかわかりません。やはり現地とのパイプをしっかりと持ち、産地に直接赴き、実際に田で見て確認したものだけを勧めてくれる施工会社を選びましょう。必ず見つかります。

他の素材も同じです。製造現場を自分の目で確認せずに、メーカーのカタログ表記だけを頼りに、「弊社は○○の素材をお勧めします」という施工会社が多いのです。大切なご家族が過ぐす住まいづくりです。

素材の確かな目と、責任感、使命感に満ちた施工会社を選ぶための手間を惜しんではいけないのです。

■ 契約前に現場で実際に住まいづくりに携わる人に会ってみましょう

リフォーム会社や工務店、住むメーカーの営業マンは「契約をとる」ことが仕事です。契約をとることで必死の営業マンはあなたのもとを何度も訪れるでしょう。リフォームや新築工事において、『契約した理由』の第一位は、「営業マンが熱心だったから」「営業マンが信頼できるから」ところなのです。

しかしあくまで待つてください。

あなたがお金を払って買つのは『住む』です。『営業マン』は家を建てません。家を建てたり、リフォーム工事をするのは現場の人たちです。

営業マンと同じように、『現場監督』や『職人さん』を見極めなければならぬのです。

「自分の大切な住まいをどんな職人たちが建ててくれるのだか?」

あなたが契約しようとする会社は、現場の顔が見える仕組みになつてはいかが?

営業マンの人柄は、大前提のことはあって、そういうしつからと見極めるいとは、現場での働く人たちの姿勢、心意気です。

■長くお付き合いしてくれる会社さんですか

「10年先、20年先、もし自分の家に何か問題が起つたときには、この会社はしっかりと対応してくれるのだと思うから。」

施工会社を選定するときに、この大切なポイントをどれだけの人が重要視しているでしょうか。家が完成して、その後全く何も問題が起きないと云ふことはあり得ません。

誰が、いつ、どのように、アフターメンテナンスを行ってくれるのか。
定期的にメンテナンスをする仕組みのある会社なのか。

長期に渡って親身につきあつてくれる施工会社を選びましょう。

イベント、コーチャンシャー、メールマガジンなど、定期的に繋がりを保ってくれる会社を選んでおけば、築後20年でも「スママゼン、困ったが壊れました。至急、見て貰えませんか」とすぐに対応をかけることができるのです。

■ 現場見学会に行こう

家づくりやリフォームを考え始めると、様々な情報収集をされると思います。その過程で多くの情報に流れ、惑わされない為には、本物の情報に触れることが大切です。

綺麗なモデルハウスを見せかけの「ザインチラシではなく、本当に大切な情報とは、その会社の日常の事務所やスタッフの対応や、生の工事現場にあります。

この最も大切な情報を覗かし、稼働するやつやつフロームを決めてはこなせん。本物の情報は自分の手と足を使つて確認をしなければなりません。

例えば現場見学会は、その会社の生の姿です。それは見せる為に建てたものではなく、現実の「家族が身銭を切つて真剣に作りあげた生の姿」です。

皆さんのが家を建てたい、リフォームをしたいと思つたり、現場見学会にぜひ足を運んでください。

品質はもちろんなのじと、スタッフの対応や、職人さんたちとの挨拶からも、今まで見えなかつたじとがハッキリと見えてわかる。

そして、一番のメリットは、「美味しきお肉の稼か」を心と体で感じられることができるのです。

あとがき

11年前の私はゼネコンに勤務し、華やかな商業ビルやお洒落なマンション、そして個人住宅を建てる現場監督でした。

ピカピカ輝く建物を創る喜びもあったのですが、心のどこかでは「何か違う..」と違和感を持っていたのです。

バブル経済崩壊後の1990年代前半、既に木材業界はかなり衰退していました。そのような中、高齢の父は、小さな材木屋をなんとか経営していたのです。しかし、ついに父の引退の時が訪れたのです。

私は34年も続いた材木屋「駿河屋の暖簾（のれん）」を跡継ぎに事業継承するに共に、思いきって『建設業』へと事業転換したのです。

ところが、私が社長となつた初年度の売り上げは僅かなものでした。

「これじゃとても駿河屋の暖簾は守れない……」と何度も廃業を考えたのです。

真っ暗闇の絶望感のなかで、私の会社経営は2年目に入つたのです。すると、すこしだけ明るい兆しが見えてきたのです。

周りからの温かい力添えもあって、徐々に仕事が増え、新築住宅やリフォームの仕事をいただけるようになつてきました。

1棟、2棟、3棟と仕事が入り、「よし、良い稼をつくるだ」と、私は休日返上で必死に働きました。でも、何か満足できないのです。何かが足りないのです。ゼネコン時代に抱いていたあの『違和感』がどんどん増すばかりでした。

ある日、「靖人、木は素晴らしいじゃ。駿河屋の原点に戻つてお客様に木を勧めてみたらいつだ」と父が語ります。

「そうか、住宅に欠けていたのは本物の木などの『自然素材』だったんだ」「あの違和感の原因はこれだったんだ!」と直感したのです。

その後、私たちが手がけた家に住まれたお客様から、「あなたが勧めてくれた木を使ってよかったです」「住んでみてわかったけど、友達の家とは明らかに違うんです。心が落ち着くし、なんといっても家の中の空気が美味しい」と嬉しい感想をいただけるようになりました。

本物の木の魅力を感じはじめた頃のことです。

一部の農家や食品メーカーが、「田舎も食べたことない『本物極品』をお客様に提供してない」という悲しい事実を知ったのです。

そして、田舎や山を離れて建設業界や都市ではなにかと、田舎を離ぬ強烈な怒りと共に深い葛藤が芽生えてもほした。

農薬や食品添加物の問題と、新建材の問題は非常に似ています。しかし、冷静に考えてみると、これらを全て否定しつゝも、社会生活が成り立たなくなってしまう気がいたします。

「しかし、『成り立たない』といつてもお放置していいものか?」

「お客様も、施工会社もコストを優先する」の業界で、『安全な自然素材』のことをお客様にどうのこうに伝えたうるようのか

「成り立たない、詰せる計算の中で、『安全な自然素材』を稼ぐべく取り入れてから

えぬだらうか」

私はその答えを見つかるべし、木の産地へと廻りはじめていたのである。

私はたまたま材木業を代々続けていた家の跡取りだったために、自然の中の人に愛着を感じてはおったが、自然素材のことを勉強しようと産地に通えば廻りはじ、ついに自然の魅力・深さに心を奪われていったのです。

家に残る古い教え「ものには命がある」「自然」感謝すべし」が、私自身の「精神の根っこ」にもしつかり息づいていたようだ。

今ではもうした私自身の『想い』に共感してくれる心の通った素敵な社員と仕事をでめらむことに感謝している。ま。

そして、お客様に『本物』をお伝えしながら、幸せな住まいづくりのお手伝ひをさせていただかれることが本当に有り難く、私の使命・天職だと感じておる。

この度、この小冊子を手にひと最後まで読んでいただき、本当にありがとうございました。

皆様の住まいづくりが大成功となり、より幸せな未来へ繋がることを心より祈っています。

一 杣 靖 人

この本の売り上げは
全て 静岡県の新月伐採を行う
木の苗木として
寄付させて頂きます。

●著者プロフィール

一 桢 靖 人

(いちます やすひと)

1969 年生まれ 東京都出身

東海大学工学部建築学科

SBI 大学院大学経営管理修士

一級建築士 一級施工管理技士

平成 4 年 スターツ㈱入社

平成 14 年 ㈱駿河屋入社

平成 14 年 代表取締役に就任



●連絡先

株式会社 駿河屋(一級建築士事務所)

〒131-0033 東京都墨田区向島1-24-16

電話 03-5637-1179

FAX 03-5637-1180

Eメール：info@surugaya-life.jp

駿河屋 自然

検索

● 駿河屋 ホームページ

<http://surugaya-life.jp/>

駿河屋 建築

検索

Facebook ページ <http://www.facebook.com/surugaya>

● 「空まねの木」ファンページ

<http://www.facebook.com/soramamenoki>

● メルマガ「社長の厳選素材住宅論」
登録・解除ページ <http://p.tl/h4XH>

自然素材住宅で本物の美味しい空気の創り方

平成 25 年 4 月 8 日 初版発行

著者：一樹靖人

定価：800 円（税別）

© Y.ICHIMASU Printed in Japan 2013

ISBN 978-4-904392-17-1